

あらためてユースワークとは

〜理念から考える〜

京都市ユースサービス協会常務理事・事業部長 水野篤夫

京都のユースサービス（※1）は、1970年代から、イギリスでの実践や理念と政策を参考にしながら取り組まれてきました。そこには、従来の日本の青少年施策や活動には見られない新鮮な考え方があったからですが、そのエッセンスは今でも色あせない魅力を持っていきます。ここで、あらためてそれを取り上げて考えてみたいと思います。

ユースワークの要点

イギリスのユースワークの理念について取りまとめを行っている機関であるNYA (National Youth Agency)のペーパー（※2）では、次のように要約されています。

1. ユースワークは、若者が楽しさ・挑戦と結びつけられた学びと実践を通して、自分自身や他者および社会について学んでいくことを手助けする。

それは、発展的なプロセスであり、若者自身が参加してみようと考える時と場において進められるものである①。また、若者とユースワーカーの信頼関係こそがユースワークのプロセスにとって中核的なものである。

2. ユースワークはユースセンターや学校、カレッジ、公園、街頭、ショッピングモールなど若者が集まるあらゆる場において行われる②。そこでの手法は個別的なサポートとともに、グループを通じたサポート、経験を通じた学びを促す方法を含むものである。

3. ユースワークは、若者が自らのアイデンティティを探求し、自己決定の経験を持ち③、自信を深め、対人関係のスキルを開発するとともに、自らの行動の結果を通して考えていくことができるための、安

全な空間を提供する④。

4. ユースワークは政府による「若者ビジョン」における、「若者は幸福で健康かつ安全な10代を過ごし、大人になるための十分な準備と、若者の持っている力をフルに開花させることができるようになる⑤」必要がある」との観点に寄与するものである。2007年1月から、地方自治体は、ユースワークも含めて、自治体の

エリア内の若者に対する「積極的取り組み」を求められているが、それらの取り組みは、若者自身が望んだものであること、若者を「成功への道筋」に乗せる助けとなるものであることが求められている。

（筆者による要約。傍線・番号も筆者による）

若者のいる場でのワーク

どうでしょう？ やさしい言葉で書かれています。実践現場にいる身からすると、結構厳しい目的が挙げられていると感じます。①で「若者自身が参加しようとする時と場で進められる」と書かれているのですが（傍線）、施設にいて待っているだけだったり、支援する側の都合で関わろうとする態度を否定する表現になっています。だから、②にあるように若者が「居る」場所でワークが行われる必要があるという訳です。また、

若者主体という極めて現代的な考え方も押さえられていて、若者の自発性や感覚（大事にしていること、関心のあること）を尊重しながら関わるといふユースワークの特徴が表されている部分でもあります。

経験を通じた学びと空間「へっぴ

③に書かれていることも、さりげない表現ですが重要な点です。自己決定の経験を持つことの重要性を指摘しているのですが、ここにとどまらず④「自らの行動の結果を通して考えていくことが出来る」ようになることまでが見通さ



れています。イギリスのユースワークは教育を基盤とした考え方といえるのですが、あらかじめ設計されたカリキュラムに沿って学ぶ、その方向に導くといった考え方をしていないことが、ここで表されています。ユースワークは体験を通して学ぶことを重視しています。さまざまなプログラム活動を仕掛けて、そこでの体験を通して学びにつなげていくのです。そして、その際に「安全な空間を提供する」という言葉が重要な意味を持ちます。

日本の一般的な健全育成の活動では、元々健全な子どもだけが参加しやすいという問題が内包されています。安定しない家庭、教育に熱心でない親の元で育つ子どもや若者はそもそも参加しにくい、という問題です。また、学校ではどうなのでしょう？ 自分でやってみての気づきから学ぶことは保障されているのか、教師が学ぶべき内容を決めていないか。そもそも、いじめやスクールカースト（※3）が存在する教室であつたら安心して「結果から学ぶ」ことができるのか、考えさせられるところですか。経験の機会をすべての子どもや若者が得られるようにし、学びのための「安全な空間を作る」ということに、ユースワークの大きな役割と責任が感じられるのです。



幸福で健康で安全な10代を

⑤で書かれている目標観も共感できるものです。問題を若者のせいにするのではなく、本来持っている力を開花させることが、社会の責任であることを述べているからです（とはいえ、ここでは政府の政策にも「配慮しているよ」といったポーズが見えなくもないですが）。「幸福で健康な10代を過ごす」ことができるような政策と活動、これも、簡単な言葉ではあります。ですが、とても重い提示です。と

もすれば子どもや子育てには力が注がれるが、ティーンエイジャーには学び・育つための「安全な空間」が確保されにくい日本の現実を考えると、イギリスで言われている言葉ではありますが、きちんと受け止める必要がある考え方はないかと思うのです。

※1 ユースワークは主に方法を語る時に使われ、ユースサービスは政策や活動を説明する時に使われるが、イギリスでも両者は入り交じって使われるので、ここでは区別しないで用いる。

※2 『The NYA Guide to Youth Work in England』(2007)

※3 スクールカーストとは、学校空間において生徒の間に自然発生する人気の度合いを表す序列を、カースト制度のような身分制度になぞらえた表現。